



～人間性と公共心に溢れた女性経済人を目指して～

- ・女性の知恵と元気で京都の特性を活かし、地域経済の発展と文化の創造に貢献する
- ・会員相互の信頼と連帯を深め、組織運営の強化・会員増強を図る
- ・健全な青少年育成・福祉の増進、環境保全への取組み
- ・情報ネットワーク化社会に対応できる適切な判断力を養い、より一層の資質の向上を目指す
- ・女性起業家の育成

会務報告 2017年10月～2018年3月

10月

- 4日 京都府商工会議所女性会連合会 平成29年度全体事業
- 6～8日 全商女性連全国大会・秋季会員交流会
- 7日 第49回全国商工会議所女性会連合会 北海道全国大会
- 10日 米子商工会議所女性会創立60周年記念式典
- 14日 水野加余子さん男女共同参画社会づくり功労者 内閣総理大臣表彰受賞祝賀会
- 21日 KYOのあけぼのフェスティバル2017
- 24日 京都商工会議所常議員会
- 30日 京都市情報公開・個人情報保護審議会

11月

- 9日 第33回京都賞受賞者歓迎レセプション
京都市男女共同参画課市民会議運営懇談会
- 17日 観光産業特別委員会
- 21日 第80回会員サロン
内 容：「日経新聞『私の履歴書』の裏話」
講 師：株式会社 日本経済新聞社 京都支社長 金丸 泰輔 氏
- 28日 京都商工会議所常議員会

12月

- 4日 京都経済記者クラブと京都商工会議所の交流会
- 8日 女子駅伝京都府チーム後援会 役員会
- 11日 第6回京都女性起業家賞（アントレプレナー賞）2次選考に係る意見聴取会議
- 12日 京都商工会議所常議員会
- 19日 京都新聞社会福祉事業団 歳末義援募金 寄託
- 20日 第2回京都市中小企業未来力会議
- 26日 全国都道府県対抗女子駅伝競走大会 京都府チーム後援会 激励懇親会

1月

- 5日 京都経済4団体年賀交歓会
- 16日 平成29年度優秀技能者表彰委員会
- 18日 KYOのあけぼのフェスティバル実行委員会
- 19日 新年会員交流会
- 23日 京都商工会議所常議員会
- 29日 第6回京都女性起業家賞（アントレプレナー賞）最終選考に係る意見聴取会議

2月

- 2日 京都市情報公開・個人情報保護審議会
- 6日 学校法人大和学園太秦キャンパス竣工レセプション
- 13日 関西商工会議所女性会連合会 理事会
- 15日 西陣呼称550年記念「西陣織展」審査会
- 18日 第6回京都女性起業家賞（アントレプレナー賞）授賞式・交流会
- 19日 京都新聞福祉活動支援選考委員会
- 20日 第81回会員サロン
内 容：「前例がなければ作ればいい」
講 師：声楽家 青野 浩美 氏

3月

- 2日 全国商工会議所女性会連合会拡大理事会
- 13日 京都府優秀技能者及び京都府青少年優秀技能者奨励賞に係る表彰式
- 13日 京都ブランド推進特別委員会 第3回委員会
- 15日 京都府商工会議所女性会連合会 理事会
- 20日 京都商工会議所常議員会
- 23日 3月例会
テーマ：「大阪の歴史と今を楽しむ」
内 容：大阪方面（綿業会館、ダックツアー、イタリアンレストラン smile）
- 27日 京都商工会議所通常議員総会

京都府商工会議所女性会連合会 平成29年度全体事業

月 日 : 平成29年10月4日(水)
 スライドショー 14:50～15:00
 講演会 15:10～16:45
 懇親会 17:00～18:45
 秋をめぐる夕べ 19:00～21:00(自由参加)

場 所 : 湯の花温泉 溪山閣
講 演 : テーマ「心の持ち方で人生が変わる～美しくなろうあなたの心～」
講 師 : 株式会社アイテラス 代表取締役社長 今野 華都子 氏

内 容

平成29年度全体事業は、8女性会（宇治・城陽・宮津・綾部・福知山・舞鶴・亀岡・京都）124名が出席し亀岡市で開催されました。冒頭に毛利会長より、開催に尽力頂いた亀岡商工会議所女性会の藤岡会長始め、会員みなさまへの感謝の気持ちを述べられ、開会しました。

講演では、専業主婦であった今野氏が夫のリストラをきっかけに45歳でエステの道に入り、2004年には世界110ヵ国の中で最優秀グランプリを受賞し世界一のエステシヤンの称号を得られ現在に至るまでの、実際の経験談をお話がありました。右も左も分からない女性が事業を立ち上げる中で直面する様々な困難を明るく前向きに解決し、自身も成長していく姿、そして、「技術も経営もすべては人作りから」との理念を、具体的な事例を通じて示唆頂き、学ばせて頂きました。閉会のご挨拶として、田中名誉会長より今野講師へのお礼の言葉が述べられました。

引続き、第2部の懇親会が場所を移して開催されました。最初に藤岡会長（亀岡会長）を代表とする「昔乙女」のメンバーにより和太鼓、それから「保津川下り」の歌が披露され力強い幕開けとなりました。その後、藤岡会長（亀岡会長）より、「私たち女性会は、それぞれの地域でそれぞれに頑張るその力を結集して、これからも一丸として成長していきましょう。」とご挨拶があり、来賓の京都府知事代理岩永京都府南丹広域振興局長、桂川亀岡市長、川勝亀岡商工会議所会頭よりご祝辞を頂きました。

久保副会長（城陽会長）の乾杯のご発声で宴が始まり、心づくしのおもてなしと素晴らしいお料理に話も弾み、最後は伊庭副会長（舞鶴会長）のご挨拶で閉会となりました。

閉会后、大本本部（神苑内）にて十五夜の月見を楽しむ「秋をめぐる夕べ」が開催されました。

(参加者16名 事務局2名含む)



秋季会員交流会

月 日 : 平成29年10月6日(金)～8日(日)
場 所 : 北海道札幌 — 小樽 — 余市 — 支笏湖 — 洞爺湖

内 容

今年、第49回全国商工会議所女性会連合会全国大会が北海道札幌で開催されましたので、秋の会員交流会との合同開催となり、2泊3日の旅を満喫しました。

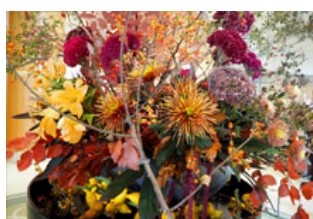
新千歳空港から北の港町小樽に直行し、地元で有名な民宿「青塚食堂」にて名物のウニを筆頭にいくら、ボタンエビ、イカ、トロなどの海鮮づくし丼とニシンの炭火焼を美味しくいただくことから旅は始まりました。その後、NHK朝の連続ドラマ「まっさん」で有名になったニッカウキスキーの蒸溜所を訪れ、世界でも稀有な石炭直火蒸留により品質第一で製造される工程を見学し、試飲を楽しみました。

2日目は、全国大会終了の後、モエレ沼公園を訪れガラスのピラミッドの一角にある一ツ星レストラン「ランファン・キレーヴ」にてランチをいただき、モエレの自然とアートに囲まれたイサムノグチのプロジェクトストーリーに感動致しました。夜は、国立公園特別地域に認定されている支笏湖畔にある、全29室のプライベート旅館に移動し、夕食の際にはみんなでソーラン節を歌ったり踊ったりと交流を深めることができました。支笏湖周辺は、紅葉が少し始まり一足先に秋の紅葉を楽しむことができました。

翌日は、有珠山にて眼下の洞爺湖や昭和新山などの景色を楽しみました。交流会のしめくくりとしては、ウインザーホテルのメインダイニングにて窓一面にひろがる自然を楽しみながら和やかなひと時を過ごしました。会員が一体となり相互の信頼と連携を深めることができた2泊3日の研修旅行となりました。

(参加者 34名 事務局 1名含む)

担当：会員・交流委員会



第49回全国商工会議所女性会連合会 北海道全国大会

月 日 : 平成29年10月7日(土)

場 所 : 北海道立総合体育センター(北海きたえーる)メインアリーナ

内 容

「第49回全国女性会連合会北海道全国大会」が札幌市「北海道立総合体育センター：メインアリーナ」において盛大に開催されました。ウェルカム演奏として札幌交響楽団コンサートマスターの大平まゆみさんのヴァイオリン演奏が披露され、北海道の雄大な土地を謳った曲を交え華やかに幕が開きました。

本大会の参加者は318女性会、2,702名でした。始めに、全国商工会議所女性会連合会の藤澤会長より「勇気と優しさ、クリエイティブな発想と実践をもって、具体的な活動を展開していきましょう」とご挨拶がありました。続いて、日本商工会議所の三村会頭、北海道商工会議所女性会連合会の八木会長、北海道商工会議所連合会の岩田会頭と、主催者側がご挨拶されました。その後、経済産業省北海道経済産業局長、北海道知事、札幌市長よりご祝辞を頂きました。

第16回女性起業家大賞には、地方創生の鍵となる農業の競争力強化に向け、6次産業化やアグリサポーター等を通じて地域の農家を支援するとともに、カフェという憩いの場を通じて農家と住民をつなぐ活動をされている新谷梨恵子さんが最優秀賞を受賞されました。優秀賞には、無添加で持ち運びの利便性や美しさにもこだわった石鹸をプロデュースされている小林由紀さん、竹の軽さや抗菌性に注目し、特許を取得した木工技術で安心安全なベビー用食器を製造販売されている藤岡康代さんが表彰されました。

その後、「特別功労賞」「組織強化」や「個として光る」女性会等が表彰され、続いて、大役を果たされた池上北海道全国大会実行委員長のご挨拶で閉会となりました。

記念講演会では、株式会社ニトリホールディングスの代表取締役会長兼CEO:似鳥昭雄氏が「お、ねだん以上。」～ニトリの成長秘話～としてご講演されました。失われた20年と言われる時代(消費が下降した時)こそが成長のチャンスと捉え、30期連続増収増益を実現してこられた成功の秘訣を、ご自身の経験など楽しいお話を交えながらご講演頂きました。

(参加者34名 事務局1名含む)



第29回KY0のあけぼのフェスティバル2017

月 日 : 平成29年10月21日(土)

時 間 : 10:00～15:00

場 所 : 京都テルサ

概 要 : オープニング、式典、活動事例発表、女性活躍シンポジウム、あけぼのバザール、ワークショップ

内 容

第 29 回 KYO のあけぼのフェスティバル 2017 は「共生の文化 たがいに支え合い未来につなぐ」をテーマに府内 18 団体による実行委員会により「人々自然と共生し男女がお互い支え合う共生の文化」を目指して開催されました。

立命館大学混声合唱団メディックスの「笑顔」をテーマに『上を向いて歩こう』他 3 曲を披露された後、参加者全員が笑顔で温かい心となり幕を開けました。

冒頭、山田知事、田中田鶴子実行委員長から「男女共生の社会、ウィメンズベース一周年を迎え益々の活躍を期待します。」とご挨拶がありました。

京都府あけぼの賞の表彰式では、本会会員である有馬えり子さんを含む 4 個人 1 団体の紹介が行われ、山田知事から表彰状と副賞の「あけぼの花章 亀甲櫃」が授与されました。

女性活躍による地域創生取り組み企画として「若草プロジェクトの活動」という様々な境遇に苦しむ少女、若い女性を支援する活動の発表や報告があり、地域の大人の関わりがいかに大切かを痛感する内容でした。

シンポジウムでは「女性の活躍は京都創生の鍵」～京都ウィメンズベース 開設 1 周年を振り返って～と題し、女性会直前会長の中西たえ子京都ウィメンズベースセンター長、山田知事、リーダーシップ 1 1 1 より 3 名の計 5 名が「女性活躍推進の時代がやってまいりました。」と話され私たちも元気づけられた時間となりました。

午後からは「海外研修 KYO あけぼのの会」の「森林資源で循環型の地方創生を目指して未来につなぐ」と題するワークショップが開かれました。田中田鶴子会長のあいさつに続き、「岡山真庭市に学ぶ」の映像発表では地元産木材の活用や CLT 工場などの地域の先進事業を「真庭バイオマス女子」の案内で研究発表がありました。

その後の講演では「豊かな暮らし」と題し、株式会社 Hibana 代表取締役の松田直子氏による地域資源を利用した循環系の社会を作るため森林バイオマスの普及、啓発活動の講演が行われました。「木の文化を大切にすまち京都」を目指している中で、脱石油運動と「木質パレット」を活用した「火のある暮らし」の提案が、自然エネルギー利用となることや、京都の森林を守るのは個々の責任にあるということを再認識する機会となりました。

最後に岡野路子副会長から「目的を持った仲間と交流を持ち研究していますこの会にぜひ皆様のご参加をお願いします」と締めめの挨拶がありました。

この他、「本音で話し合う男性限定ワールドカフェ」が開催され「女性活躍 男性が応援します」をテーマに京都産業大学伊藤公雄教授と日本青年会議所の子育て中パパ職員の対談、大学生を含む幅広い年代の男性との交流があり、楽しい意見交換となりました。

(参加者 24 名 事務局 2 名含む)



第80回 会員サロン

月 日 : 平成29年11月21日 (火)
時 間 : 11:30~13:30
場 所 : 京都ブライトンホテル「カディコート」
演 題 : 「日経新聞『私の履歴書』の裏話」
講 師 : 株式会社 日本経済新聞社 京都支社長 金丸 泰輔 氏

内 容

今回は、広報・情報委員会担当のサロンとして、日本経済新聞社京都支社長の金丸泰輔氏を講師にお迎えしご講演頂きました。

金丸氏は日経新聞一筋の方で、東京本社文化部部長として文化欄の人気のコラム「私の履歴書」を担当されました。この「私の履歴書」については、文化部部長と社長の2名しか関わらない記事であるということで、公開されていない面白いエピソードや、記事にまつわるお話を色々伺いました。

「私の履歴書」は、著名人が出生から連載時に至るまでの半生を描いたもので、1956年(昭和31年)にスタートし、当初は連載期間が1週間と短かったのですが、その後次第に長くなり、1987年(昭和62年)からは毎月1ヶ月に1名のペースで連載を続けていて、累計では819回にのぼります(2017年11月現在)。昔は、若い著名人の履歴書もありましたが、「若すぎる!」などのクレームが入り、現在では、経営者は70歳以上というのが一つの目安になっているので、一線を退いた後の会長や相談役といった立場の方が登場するケースが多くなっています。本年11月現在までに登場した人物は818名で、そのうち女性は約30名だけで、2回登場されているのが松下幸之助氏とのことでした。また、経営者としては315名以上登場していますが、そのうち女性経営者はパーソナルテンプスタッフ創業者の篠原欣子氏1名だけというのが現状です。京都からも、立石一真氏を初め沢山の経営者が登場しており、それぞれの人物について半年くらい前から準備・取材し記事にされているようです。

京都という土地は文化的な要素が多く日経新聞の文化欄に登場することが多い。京都での皆さまのご活躍をお祈りし、いつかもっと多くの女性が「私の履歴書」に登場していただけますようお願いで講演が締めくくられました。

(参加者47名 うちゲスト7名)

担当：広報・情報委員会



京都新聞社会福祉事業団 歳末義援募金 寄託

月 日 : 平成29年12月19日(金)

内 容

毛利会長、安藤副会長、吉井環境・福祉委員長が、2017 七夕チャリティーコンサートの収益金と会員の募金協力を併せた義援金100万円を、京都新聞社会福祉事業団へ持参し、寄託しました。

本義援金は、京都新聞社会福祉事業団を通じ、独居老人への配食サービス、福祉施設の設備品支援、障がい者の就労支援、児童養護施設を巣立つ子供たちの自立支援など、年間を通じてさまざまな社会福祉活動に役立てられます。

皆様のご協力、誠にありがとうございました。



(担当：環境・福祉委員会)

新年会員交流会

月 日 : 平成30年1月19日(金)
時 間 : 18:00~20:30
場 所 : ホテルグランヴィア京都

内 容

今年の新年会員交流会は、文化庁推薦の新鋭ソプラノ歌手、松田 緑さんのリサイタルにて清らかに始まりました。曲目はヨハン・シュトラウス2世の『春の声』、モーツァルトの『モテット「踊れ喜び、幸いなる魂よ」よりアレレヤ』、メンデルスゾーンの「歌の翼に」に続き、最後は新年の幕開けにふさわしい曲、ヴェルディの『オペラ「椿姫」より乾杯の歌』でした。大きなホールでの演奏と違い、身近に生の声をお聞きすることで、喜びや楽しさといったパワーを直に感じる事が出来ました。

まず、毛利会長が新年を祝うお言葉の後、めまぐるしく変化する時代にあっても、本年が更なる経済発展の年となりますようにとの願いと、そして今年の抱負を述べられました。続いて、全国商工会議所女性連合会より特別功労者表彰を受賞された中西直前会長へ花束贈呈式があり、中西直前会長からは受賞を受けての感謝のお言葉がありました。その後、田中顧問の乾杯のご発声で華やかに祝宴がスタートしました。

会食はお料理だけでなく器にも趣向を凝らした、新春に相応しい豪華な内容で親睦を深める良い機会となりました。アトラクションは、じゃんけんゲームにて各テーブルのお花をお持ち帰り頂くという内容で、大変盛り上がり、笑顔が溢れたひとときとなりました。最後は葛城副会長より初寄りを寿ぐ会にお出まし頂いた皆様へのお礼の言葉と、今年の干支にまつわる激励のお話があり、戊年に相応しいワンダフルな新年会員交流会となりました！

(参加者 61名 事務局 3名含む)

担当：会員・交流委員会



第81回 会員サロン

月 日 : 平成30年2月20日(火)
時 間 : 11:30~13:30
場 所 : 京都ブライトンホテル「麗華の間」
演 題 : 前例がなければ作ればいい
講 師 : 声楽家 青野 浩美 氏

内 容

今回は、気管切開をされたにも関わらず、スピーチカニューレ※という医療器具を付けて「声」での会話を可能にし、更には美しい「歌声」までを取り戻され、今では全国各地でご活躍の声楽家、青野浩美氏を講師としてお招きしました。ご講演の合間に歌唱を織り交ぜた、トーク&コンサートの構成でした。

青野氏は声楽家を目指していた23歳で難病を発症し、人工呼吸器装着のために気管切開に踏み切られました。気管切開は命を繋ぐための処置でしたが、同時に声を失うことでもありました。しかし彼女は歌うことを諦めきれず、数々のスピーチカニューレを試して声を取り戻し、やがては歌声を取り戻されました。ご講演では、声のみならず歌を歌うことなど「前例がないから無理だ」とお医者様から告げられた青野氏が、「何もせずに無理と言ってしまうとそれで終わりだからもったいない」と奮起し、歌を取り戻すまで挑戦された日々の自らの体験を語られました。ステージには車椅子で上がられ、音楽教師であった母・青野真弓氏がピアノ伴奏をされました。ドイツやイタリアの名曲をはじめ、日本の杉本竜一氏の曲“BELIEVE”を披露され、「今 未来の扉を開けるとき 悲しみや苦しみがいつの日か喜びに変わるだろう」という歌詞はまさに自分のことのように語られる姿は、聴く者の胸を打ちました。

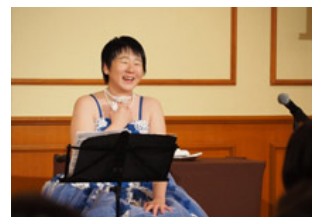
青野氏の日常生活での移動は車椅子と、自ら運転される自動車とのことですが、夜間は人工呼吸器を使用されています。また声楽家として活動される一方で、現在も現役大学生として言語聴覚士を目指し、勉学に励まれています。障害と向き合い、夢を実現させる行動力や、チャレンジする姿勢など、ご自身の体験を沢山お聞かせいただきました。

※スピーチカニューレ：気管切開をした人が発声をするために気管に入れる管のこと。

但し「自発呼吸が出来る」「声帯に疾患がない」など、様々な条件をクリアしなければスピーチカニューレを使い声を出すことは出来ない。また、スピーチカニューレ自体も様々な形状や大きさなどがあるため、自分に合うものでなければ声は出ないと言われている。

(参加者 39名　うちゲスト 3名)

担当：環境・福祉委員会



3月例会「大阪の歴史と今を楽しむ」

月 日 : 平成30年3月23日(金)
時 間 : 11:00~21:10
場 所 : 大阪方面【綿業会館、ダックツアー、イタリアンレストラン sumile】

内 容

2、3日前からの春冷えで、両横窓のない水陸両用バス「ダックツアー」体験の為、天候を懸念しましたが、当日は晴天に恵まれ、商工会議所よりバスで出発しました。車中では「春」の歌を皆で合唱しながら、最初の目的地・大阪船場の綿業会館に到着しました。

綿業会館は昭和6年、日本綿業倶楽部の建物として、巨額の寄付により竣工されました。国の重要文化財に指定されており、名実ともに戦前の日本の近代美術建築の傑作といわれています。各部屋はイギリス・イタリア様式などそれぞれに違った様式で造られており、華やかな歴史の舞台を彷彿とさせました。

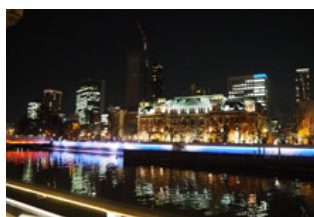
見学に続いて、大阪大学博士(国際公共政策)河瀬義博氏により『大阪商人の「商い」と「船場」—その源流を探り今日的意味を考える—』と題したご講演を頂きました。ご講演では「船場」だけに留まらず、研究に裏付けされた古代から現代の世相までを語られ、痛快に一言を呈していただき、実りある時を持つ事ができました。

その後、水陸両用バスに乗って、ダックツアーと呼ばれるバスツアーで大阪見物をしました。地上からは歴史ある大阪を眺め、水上からは数千本の早咲きの桜の中を駆け抜けるという、まさに90分のエキサイティングツアーでした。

夕食は、水の都大阪らしいロケーションのレストランで頂き、会員相互の懇親を深めることができました。参加者の皆様のご協力のおかげで全行程をほぼ時間通りに運ぶ事ができ、大阪を満喫した一日となりました。

(参加者 36名 事務局 1名含む)

担当：文化・経済委員会



新規会員のご紹介・退会者のお知らせ

平成 30 年 2 月入会

深田 眞輝江さん (環境・福祉委員会)

平成 30 年 3 月入会

宮田 千津代さん (広報・情報委員会)
